
美瑛町共有ビジョン

【まちのありたい姿を描き、それを実現する】

～20年後の美瑛町をみんなで考えよう～



令和3年（2021年）9月

美 瑛 町

美瑛町共有ビジョンまちづくりワークショップ

目次

1 はじめに

はじめに	1
------	---

2 まちづくりワークショップの概要

(1) 開催の背景	1
(2) 開催の目的	1
(3) ワークショップの体制	2

3 ワークショップの記録

ワークショップの記録	3
------------	---

4 ワークショップに参加した皆さんの感想

(1) 参加メンバーの感想	12
(2) 講師からの一言	13

5 おわりに

おわりに	13
------	----

1 はじめに

美瑛町では、1960（昭和35）年に人口が21,743人とピークを迎えて以降、人口の減少が続いています。2021（令和3）年7月末現在の人口は9,686人と1万人を割り込み、今後も人口は減少していくものと予想されます。

人口減少、少子高齢化、過疎化など様々な地域課題を抱えておりますが、今だからこそ美瑛町に住むみなでまちの将来のことについて真剣に向き合う必要があります。

この冊子では、20年後の美瑛町について「どんなまちにしたいか、どんなまちになってほしいか」を、町民と役場職員がチームを作り、町民の皆さんの意見をできるだけ多く取り入れながら、真剣に話し合ってきた経過と今後のビジョンを説明します。

2 まちづくりワークショップの概要

（1）開催の背景

美瑛町では、2016（平成28）年に策定した「第5次美瑛町まちづくり総合計画」（以下「総合計画」という。）を、本町が策定するあらゆる構想や計画の最上位と位置づけ、本町が進むべき方向性と、それに向けて実施すべき施策を体系づけた計画をもとに、まちづくりを推進してきました。

しかしながら、地域においては人口減少、少子高齢化、過疎化などの課題が顕在し、ますます地域衰退の波が押し寄せており、国の共通施策である、地方創生推進の加速化における地方自らの対応が求められております。

そのような中、本町では、2020（令和2）年に総合計画が中間年を終えることや、「移住・定住」「子ども・子育て」に関する施策における役場組織の再編が行われたことなどから、新たなまちづくりの方向性と基本施策等を示していく必要があります。

行政主導のまちづくりには限界があり、これからのまちづくりには町民の皆さんの「声」を取り入れながら、町民主体のまちづくりを実践していく必要があります。

（2）開催の目的

まちづくりワークショップは、美瑛町に対する町民の皆さんの思いをこれからのまちづくりに生かしていくため、2040（令和22）年の美瑛町のありたい姿を描き、実現するための目標である「美瑛町共有ビジョン」（以下「ビジョン」という。）を策定することを目的としています。

このビジョンをまちづくりの柱と位置づけ、新たな総合計画の策定と、それに基づくこれからのまちづくりの実践につなげていきます。



(3) ワークショップの体制

2020（令和2）年8月号の町広報で町民参加者を募り、11名の方に応募していただきました。農業を営む方、移住されてきた方、子育て中の方など、仕事も生活もこれまでの経験も異なる様々な方々に集まっていただきました。

参加した皆さんは、美瑛町に対し、熱い思いをお持ちの方ばかりで、ビジョンの策定に大いに貢献していただきました。

また、今回はこれまでのワークショップとは違い、町民だけではなく若手中心の役場職員12名にも参加していただき、町民と役場職員の混成チームを基本としてビジョンの策定作業に取り組みました。

参加メンバーの紹介

（参加者は五十音順）

町民参加者 (11人)	京屋 大輔※、佐竹 正範、白石 久代※、鈴木 結※、竹内 百合、土屋 宏之 沼倉 美保※、沼田 紘司、沼田 康子、村上 寿裕、吉田 鉄平
役場職員参加者 (12人)	石澤 智博（建設水道課）、大畑 裕矢（総務課）、越智 望実（保健福祉課） 國本 完（農林課）、柴田 崇史（教育委員会管理課）、沼尻 一樹（総務課）※ 原子 雅史（住民生活課）※、平田 敦史（商工観光交流課）、森中 麻友（総務課） 森谷 拓磨（税務課）、柳田 瑤介（まちづくり推進課）※、結城 英貴（保健福祉課）※
事務局 (3人)	まちづくり推進課 課長 新村 猛、係長 安藤 和也※、主事 八代 正弘※

※は有志チーム兼務

講師の紹介

枝廣 淳子 氏

有限会社イーズ 代表取締役
大学院大学至善館教授、幸せ経済社会研究所所長
東京大学大学院教育心理学専攻修士課程修了

環境・エネルギー問題に関する講演、執筆、企業コンサルティング等の活動を通じて、地球環境の現状や国内外の動きを発信している。システム思考やシナリオプランニングをいかした合意形成に向けての場づくり・ファシリテーターを企業や自治体で数多く務めている。

島根県隠岐諸島の海士町や熊本県の水増（みずまさり）集落、南小国町、北海道の下川町等、意志ある未来を描く地方創生と地元経済を創りなおすプロジェクトにアドバイザーとして関わっている。



3 ワークショップの記録

第1回 まちづくりワークショップ

日時 令和2年11月19日 午後6時から9時まで 会場 美瑛町役場4階委員会室

進行プロセス

①角和町長のあいさつ

「20年後の2040年に向かって美瑛町のありたい姿を実現するために何をすべきなのか、という視点でまちづくりを進めていきたい」「大きな目標となるビジョンを皆さんとともに作っていきたい」「町民の皆さんのアイデアで、美瑛の将来像を描いていただきたい」とのお話をいただきました。

②自己紹介

皆さん緊張した面持ちで自己紹介（出身や仕事など）をしていただきました。

③グループワークⅠ

美瑛町の「好きなところ」「素敵だと思うところ」「誇りに思っているところ」を付箋に書き込み、模造紙に貼りながら話し合いました。次に、美瑛町の「気になるところ」「変えた方がよいと思うところ」「不安・心配なところ」について同様のプロセスで話し合いました。

④グループワークⅡ

SDGsの17目標について「美瑛町にとっての関連性」「美瑛町にとっての重要性」の観点で1～5点までの点数を付けました。皆さんが付けた点数を集約して、分析結果をもとに次回のワークショップで話し合いました。

⑤グループワークⅢ

今の美瑛町と比べて「増えてほしいもの」「減ってほしいもの」「変わらずにあってほしいもの」を付箋に書き込み、模造紙に貼りながら話し合いました。

次に、この質問を参加者以外の町民の皆さんにインタビューするための準備として「どういう人に聞きたいか」について同様のプロセスで話し合いました。

⑥ひと言チェックアウト

ワークショップの感想を一人ひと言ずつ発表しました。



事務局のコメント



令和2年6月からワークショップをスタートする予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、初回は11月開催となりました。町民の皆さんと役場職員が長期間にわたって話し合いをするという、これまでにない取り組みのため、期待と緊張の中でのスタートとなりました。

第2回 まちづくりワークショップ（オンライン開催）

日時 令和3年2月17日 午後6時から9時まで

会場 美瑛町役場 2階会議室
美瑛町役場 3階第1・2会議室

進行プロセス

①角和町長のあいさつ

「前回は大変好評のうちに終了したので、今回も楽しみにしていた」「コロナ禍でのオンライン開催は今の時代のあり方だと思う」とのお話をいただきました。

②ひと言チェックイン

ワークショップに向けた思いを一人ひと言ずつ発表しました。

③町民インタビューの確認

前回から今回までのあいだに、参加者一人ひとりが自分の友人や知人、職場の同僚などに、今の美瑛町と比べて「増えてほしいもの」「減ってほしいもの」「変わらずにあってほしいもの」をヒアリングしました。329人も町民の皆さんから意見をいただき、その結果を共有しました。

④グループワーク I

前回話し合った、今の美瑛町と比べて「増えてほしいもの」「減ってほしいもの」「変わらずにあってほしいもの」の意見が記入された用紙をハサミで切り取り、分類ごとにグループ分けをした上で、そのグループに名前を付けました。

次に、上記の下線部が「なぜ、そう思うか？」を掘り下げて考え、付箋に書き込み模造紙に貼りながら話し合いました。

⑤ワークショップ II

町民インタビューで意見をもらった人の属性一覧をもとに、まだヒアリングできていない町民の属性を考え、次回までに誰がどのような人にヒアリングをするか考えました。

⑥ひと言チェックアウト

ワークショップの感想を一人ひと言ずつ発表しました。



事務局のコメント



本邦初！？となるオンラインでのワークショップを行いました。枝廣講師は熱海市から、その他の有限会社イーズの方は東京都から、そして美瑛町は役場の中で2会場に分かれて開催しました。初めての試みでしたので不安もありましたが、大きなトラブルもなく無事に開催することができました。

第3回 まちづくりワークショップ

日時 令和3年3月30日 午後6時から9時まで 会場 町民センター3階大会議室

進行プロセス	①ひと言チェックイン ワークショップに向けた思いを一人ひと言ずつ発表しました。
	②グループワークⅠ 言葉の因果関係を矢印(⇒)でつなぐ作業をクイズ形式で行いました。例えば「本を読むと知識が増える」という文章は、「読んだ本の数」⇒「知識」となります。 次に、前回作成した、今の美瑛町と比べて「増えてほしいもの」「減ってほしいもの」「変わらずにあってほしいもの」の言葉をもとにループ図を作成し、美瑛町の好循環がいくつもループしている姿を描いてみました。
	③グループワークⅡ グループワークⅠで作成したループ図をもとに、参加者が思う「美瑛町を好循環にしたい要素」が「自然環境・産業経済・笑顔(福祉)・子ども子育て」であることが見えてきたので、その要素ごとに新たなグループを作り、自分が話したいグループに移動してから、再度ループ図を作りました。 次に各グループで作成したループ図をもとに、そのエッセンスを汲み上げながら一文にまとめる作業を行いました。
	④ひと言チェックアウト ワークショップの感想を一人ひと言ずつ発表しました。
	⑤角和町長のあいさつ 「皆さんの意見をループ図にまとめることで有機的なつながりが生まれ、いよいよ佳境に入ってきたなという期待感を感じた」「引き続き色々なアイデアを出していただきたい」とのお話をいただきました。



事務局のコメント



これまで取り組んできた“バックキャストिंग※”から“システム思考※”を用いて考える”という段階に入り、いよいよビジョンの作成に近づいてきたような気がしました。参加者の皆さんもグループワークに慣れてきたのか話し合いが活発になり、グループでの作業を楽しみながら取り組む姿が増えてきました。

※「未来のあるべき姿」を描き、その姿を実現するためには、今何を行うべきか、未来に向けてどう進んでいくべきかを考える思考法のこと。
※※物事の全体像を捉え、様々な要素とのつながりを把握した上で、最も効果的な解決法へ向かうアプローチのこと。

第4回 まちづくりワークショップ

日時 令和3年4月22日 午後6時から9時まで 会場 町民センター2階第3・4会議室

進行プロセス

①グループワークⅠ

6つのグループに分かれてグループワークを始めました。前回のワークショップの最後に作成した一文（ビジョン案）と、以前行った町民インタビューで集めた意見を照らし合わせて、一文（ビジョン案）にはない町民意見をピックアップして模造紙に貼り付けました。次に貼り付けた意見をグルーピングしました。

前回作成したビジョン案

- 自然景観 町民の誇りである自然景観が、便利さとは違う住み心地を提供し、外にも魅力を発信し続ける丘のまち
- 新規産業 まちの状況を常時細かく発信し、新しいことにチャレンジする人や企業が住み続けられやすい環境の整ったまち
- 笑顔（福祉） みんなが生きがいを感じ、お互いに助け合いながら、誰もが安心して暮らせる笑顔あふれるまち
- 子ども・教育 個性を伸ばして育った子どもが戻ってきたくなるまち

②グループワークⅡ

グループワークⅠで作成した模造紙について、次の3点（①SDGsの枠組み、②役場の組織図、③第2回ワークショップのグループワークⅠで作成した資料）と照らし合わせて、出てきていない重要な意見をピックアップした上で、模造紙に貼り付けました。

次に、貼り付けた意見をグルーピングして、グループワークⅠで作成した模造紙に追加しました。

③グループワークⅢ

4つのグループ（自然景観、新規産業、笑顔（福祉）、子ども・教育）にメンバーを再編してグループワークを行いました。これまで出てきた意見をもとに、ストーリーを描きながら一文（ビジョン案）を作成しました。

次に、作成した一文（ビジョン案）の中に「美瑛らしさ」が入っているかどうかを確認し合いながら、次の順番（①グルーピング、②つながりを考える、③一文を作る）で作業を行いました。

④ひと言チェックアウト

ワークショップの感想を一人ひと言ずつ発表しました。



事務局のコメント



毎回3時間という長時間にわたりワークショップを行ってききましたが、枝廣講師から説明される作業内容（意見用紙を切り取る・付箋を模造紙に貼り付けてグルーピングする・一文を考えるなど）をこなしていくと、時間があっという間に過ぎてしまい、参加者の中からは「もう少し時間が欲しい!」という声も聞こえてくるぐらい作業に熱中していました。

第5回 まちづくりワークショップ

日時 令和3年7月1日 午後6時から9時まで 会場 美瑛町役場4階委員会室

進行プロセス

①ひと言チェックイン

ワークショップに向けた思いを一人ひと言ずつ発表しました。

②グループワークⅠ

前回作成した一文（ビジョン案）をもとに、自分自身の感想や共通する言葉、言葉のつながりなどを意識しながら追加・修正する箇所について話し合いました。

次に、枝廣講師から「ビジョンに基づいて町が政策を作るので、政策に落とし込めるような具体的なイメージをもって議論すること」というアドバイスをいただきましたので、これに沿って一文（ビジョン案）の言葉を言い換えることや、詳しく説明することなどにより、もう一度掘り下げて考えました。出てきたキーワードを付箋に記入し、ホワイトボードに貼り付けて発表し合いました。

前回作成したビジョン案

- Aチーム すべての人が笑顔で最期まで暮らせるまち／自然景観が農業と観光をつなぐ架け橋となるまち
子どもの個性を伸ばし多様な未来をつくる教育
- Bチーム 自然景観を保全し町民の生活環境を守るまち
農業・観光を基軸としICTを活用し新規産業のチャレンジを促進し若年層の雇用を増加させ豊かで幸せなまち
- Cチーム 笑顔あふれ豊かに暮らせる住みやすいまち／医療・福祉・教育が充実し誰もが安心して暮らせるまち
子どもや高齢者など様々な人たちが集まれる場をつくることで、笑顔のあるまちをつくる
美瑛町らしい集まれる場／移住者が新規産業にチャレンジし、域内経済循環を活性化させ雇用を創出させる
- Dチーム 男女平等やマイノリティが尊重される社会づくりが笑顔のあるまちをつくる
まちの財産である豊かな自然景観を守る／安全・安心なインフラ環境が住み心地の良いまちづくりへつながる
誰もが幸せで笑顔になれるまち／健康で長く安心して住み続けられるまち
便利・安全・クリーンな住みやすいまち／農業が作り出す観光と食のまち
みんなが集まりたくなるまち／失敗してもチャレンジできるまち

③グループワークⅡ

枝廣講師から「①北海道、日本、世界の一員としてのまち、②時代と社会の要請に応えられるまち、③SDGsの視点、この3つの観点を意識して議論を深めてほしい」「これからのまちづくりにおいて避けて通れないことは、『エネルギー、食糧、温暖化』の3つである」とのお話があり、これをもとに4つのグループに分かれて一文（ビジョン案）を整理し、それぞれ発表し合いました。

④ひと言チェックアウト

ワークショップの感想を一人ひと言ずつ発表しました。

⑤角和町長のあいさつ

「最初の頃の自由奔放な意見がまとまってきた。とても面白いワクワクする」「ビジョンはスローガンではなく、政策に落とし実行していかなければならないという責任感と緊張感を持っている」「美瑛町を変えていくのは町民の皆さんであり、役場職員の皆さんの力である。変えていく道筋をつくっている」とのお話をいただきました。

事務局のコメント



新型コロナウイルス感染症の影響で、前回から2か月以上が経過してしまいましたが、皆さんの熱量は下がることなく話し合うことができました。いよいよビジョン作りも終盤を迎え、ワークショップも残すところあと2回ですが、最終回では完成したビジョンをもとに振り返ることが目的となるため、ビジョンの作成作業としては、次回が最終回となります。

第1回 有志チーム会議

日時 令和3年7月8日 午後6時から8時まで

会場 美瑛町役場1階第1会議室

進行プロセス

①有志チームの目的と作業内容

前回のワークショップで途中まで一文（ビジョン案）を作成しましたが、次回のワークショップで完成させるために、ワークショップメンバーの中から有志を募り、有志チームを結成しました。

次回のワークショップまで時間が限られていたので、これまでワークショップの中で出てきた言葉や町民インタビューで集めた意見、枝廣講師からのアドバイスを念頭に置きながら、全員が一文（ビジョン案）をまとめる作業に集中しました。

②会議の結果

今回の会議では「一文（ビジョン案）の構成は大きな見出しを付けた後、その下に説明文を付けることとする」「一文（ビジョン案）の文末は『まち』に統一する」の2点について決定しました。

また、次回の会議までに一人一人がビジョンの最終案を考えてくることを宿題として会議は終了しました。

第2回 有志チーム会議

日時 令和3年7月15日 午後6時から7時30分まで

会場 美瑛町役場1階第1会議室

進行プロセス

①作業内容

前回の宿題の回答を皆さんで持ち寄り、ビジョンの最終案を作成しました。

②会議の結果

以下のとおり、次回のワークショップに向けた有志チームのビジョン案を作成しました。

ビジョン案

- すべての人が居場所と役割を持って、いつまでも笑顔で暮らせるまち
人と人がつながりあい、多様性を尊重し、すべての人々に居場所と活躍の場があり、ずっとここで輝けるまち
- 豊かな景観が、農業と観光の架け橋となるまち
世界に誇る「丘のまちびえい」を守り、地域資源が農業と観光の新たな価値を生み、あらゆる産業の相乗効果を高めるまち
- 誰もが自らの可能性を伸ばせるまち
自分たちの未来を信じ、新たなチャレンジを応援しあえるまち
- 子どもの個性を育み、多様な未来をつくるまち
地域全体で子どもの成長を温かく見守り、個性に応じたサポートができるまち
- 誰もが健康でともに支えあい、安心して住み続けられるまち
充実した保健・医療を受けることができる体制が確保され、みんなで声をかけあい健やかに暮らせるまち
- 豊かな自然と共生し、エネルギーは自分たちでつくるまち
十勝岳連峰の裾野に広がる豊かな森林を守りながら、再生可能エネルギーを取り入れ、持続可能な循環型社会を目指すまち
- ライフラインが確保され、安定的な生活を続けられるまち
地球温暖化による災害や十勝岳噴火に備えたインフラ環境を維持するとともに、防災・減災についてみんなで考え行動するまち

事務局のコメント



これまでのワークショップで、様々な町民の意見を聞いてきたメンバーの皆さんは、作業を進めていく中で、一文（ビジョン案）に対する思いを高め合ってきました。だからこそ、一文（ビジョン案）をまとめる最後の作業の場面では、言葉選びの難しさを痛感しながらも、みんなで話し合っ作り上げていく「楽しみ」も感じながら作業を進めていました。

第6回 まちづくりワークショップ

日時 令和3年7月20日 午後6時から9時まで 会場 美瑛町役場4階委員会室

進行プロセス

①ひと言チェックイン

ワークショップに向けた思いを一人ひと言ずつ発表しました。

②有志チーム会議の報告

事務局から2回にわたって行った、有志チームによる一文（ビジョン案）の作成経過を報告しました。

③グループワークⅠ

有志チームで作成した一文（ビジョン案）の確認作業を参加者全員で行いました。言葉の大きな修正はせずに、以下の要点に絞って検討しました。

- ・「ヌケモレ」 ～ 言葉の抜け漏れがないかチェックし、町民のどんな人が見ても「自分のことを反映してくれている」と感じられる文章にすることや、この場にはない人の声を反映できているか確認する。
- ・「らしさ」 ～ 他のまちにはない美瑛町らしさが文章に入っているか確認する。
- ・「わかりやすさ」～ 専門用語は極力使用せず、多くの町民がわかりやすいと感じる言葉づかいに心がける。
- ・「伝わりやすさ」～ 一文（ビジョン案）を町民に周知する方法を考える。

④グループワークⅡ

全部で7つある一文（ビジョン案）について、グループに分かれて話し合い、分担して一文（ビジョン案）を完成させました。

⑤ひと言チェックアウト

ワークショップの感想を一人ひと言ずつ発表しました。



事務局のコメント



一文（ビジョン案）を作る作業は、今回が最終回となりました。これまでみんなで話し合ってきたこと、町民インタビューで集めた意見のこと、枝廣講師からのアドバイスのことなど、今までの過程を振り返りながら、慎重に、かつ、町民に響く言葉を選んでいきました。ひと言チェックアウトでは、皆さんから大変思いのこもった感想が述べられました。

第7回 まちづくりワークショップ

日時 令和3年9月27日 午後6時から9時まで 会場 美瑛町役場4階委員会室

進行プロセス	①ひと言チェックイン ワークショップに向けた思いを一人ひと言ずつ発表しました。
	②町民コメントの報告 8月16日から9月16日までの期間で実施した町民コメントの結果を、事務局から報告しました。 これまでのワークショップで作上げた「美瑛町共有ビジョン（案）」を公表し、町民の皆さんから8件の貴重なご意見をいただきました。
	③グループワーク 町民コメントで寄せられた意見を踏まえ、一文（ビジョン案）を修正すべきかどうか検討しました。 枝廣講師からは「意見を踏まえつつも、これまで多くの町民の意見を取り入れながら作り上げてきたビジョン案なので、大きな修正は加えない方がよい」というアドバイスをいただきました。 検討の結果「町の経済活動に関する視点をもう少し強調したほうがよいのでは」というご意見に対し、共感するメンバーの中から、一文（ビジョン案）の修正案が提案され、他のメンバーと意見を交わしながら一部修正を決定し、完成しました。
	④これまでの振り返り これまでの全7回にわたるワークショップを振り返るため、話し合いの経過やグループワークの手法など、講師からの説明がありました。
	⑤今後の取り組み 枝廣講師から「美瑛町共有ビジョン」で掲げた目標を実現するために、具体的なプロジェクトを検討していく方法について、他自治体の事例をもとに説明がありました。
	⑥「美瑛町共有ビジョン」手交式 ワークショップの参加者により一文（ビジョン）が読み上げられ、角和町長へ手渡されました。
	⑦角和町長あいさつ 「皆さんの思いのこもった素晴らしいビジョンをいただいた」「このビジョンが美瑛町のまちづくりのスタートになる」「このビジョンがまちの中心であり、ぶれない軸となる」「20年後の美瑛町に向かって進むための基盤ができた」「皆さんとともに次のステップを踏んでいきたいと思う」というお話をいただきました。
	⑧記念撮影 最後に、約1年間にわたり共にしてきたメンバー全員で記念撮影をして、本ワークショップは終了しました。

事務局のコメント



皆様のご協力により、美瑛町の20年後のありたい姿を描いた「美瑛町共有ビジョン」が完成しました！コロナ禍という難しい状況でしたが、多くの町民の皆さんの意見を取り入れた一文となりました。今後は、ビジョンで掲げた目標に向かうため、具体的なプロジェクトを考える新たなワークショップを展開していきます。本当にありがとうございました。

ビジョン（案）策定までの経過

まちづくりワークショップは、令和2年度中のビジョン完成を目指し、2020（令和2）年4月から開始する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により11月からの開催となりました。

また、年度途中にも延期せざるを得ない状況が続いたことから、令和3年度に策定期間を延長してワークショップを実施しました。

年度	年月日	会議名	主な内容
令和2年度	2020年11月19日	第1回ワークショップ	<ul style="list-style-type: none"> 【バックカastingでビジョンを描く】 ・美瑛町の「好きなおところ」「素敵だと思うところ」「誇りに思っているところ」を考える。 ・美瑛町の「気になるところ」「変えたほうがよいと思うところ」「不安・心配なところ」を考える。 ・今の美瑛町と比べて「増えてほしいもの」「減ってほしいもの」「変わらずにあってほしいもの」を考える。
	2021年2月17日	第2回ワークショップ (美瑛-東京オンライン開催)	<ul style="list-style-type: none"> 【バックカastingでビジョンを描く】 ・第1回で出た意見をグルーピングして議論を掘り下げる。 ・町民へのインタビューを実施する。
	2021年3月30日	第3回ワークショップ	<ul style="list-style-type: none"> 【システム思考を用いて考える】 ・言葉の因果関係を矢印でつなぎループ図を作る。 ・まちを好循環にしたい4つの要素（自然環境、産業経済、福祉、子ども子育て）に分けてループ図を作り、それをもとに一文を作る。
令和3年度	2021年4月22日	第4回ワークショップ	<ul style="list-style-type: none"> 【システム思考を用いて考える】 ・SDGs、役場組織図、これまでの資料をもとに、重要な要素を見出す。 ・ストーリーを描きながら一文を作る。
	2021年7月1日	第5回ワークショップ	<ul style="list-style-type: none"> 【ビジョンを作成する】 ・町の政策に落とし込めるような具体的なイメージを持ちながら文章を修正する。 ・エネルギー、食糧、地球温暖化など広い視点で一文を見直し修正する。
	2021年7月8日	第1回有志チーム会議	ワークショップで作成した一文（ビジョン案）をもとに最終案を作成する。
	2021年7月15日	第2回有志チーム会議	ワークショップで作成した一文（ビジョン案）をもとに最終案を作成する。
	2021年7月20日	第6回ワークショップ	<ul style="list-style-type: none"> 【ビジョンを作成する】 ・「抜け漏れ」や「美瑛町らしさ」など、要点を絞って一文（ビジョン案）を完成させる。
	2021年9月27日	第7回ワークショップ	<ul style="list-style-type: none"> 【ビジョンを作成する】 ・町民コメントを踏まえ、一文（ビジョン案）を修正し、ビジョンを完成させる。 ・これまでの取り組みを振り返る。

4 ワークショップに参加した皆さんの感想

まちづくりワークショップでは、「美瑛町の20年後のありたい姿」をテーマとして、参加者の皆さんから多くの意見を出してもらうことができました。新型コロナウイルス感染症の影響により、思い通りに作業を進めることが難しい状況の中でも、開催の延期やオンライン開催への変更など、臨機応変に対応しながら、また、参加者の皆さんにもご協力をいただきながら、ビジョン案を作成することができました。

参加者の皆さんや講師から、ビジョン案に対する思いや、ワークショップの参加にあたっての感想などを話してもらいましたので、その一部を紹介します。

(1) 参加メンバーの感想



パブリックコメントで町民の皆さんからどんな意見が出てくるのか楽しみです。これまで私たちが必死に考え抜いたビジョンなので、できればこのまま進められたらいいなと思います。



大都市の生まれで、今までだったら関われなかつたらと思うまちづくりについて、美瑛に来て私なりに関わり、ワークショップを通じて勉強させてもらいました。ビジョンに自分の思いもある程度のせられたのかなと思います。



有志チームで作った文案もメンバーの中では「完ぺきだったね」って言ってたんですけど、やっぱりたくさんの方の目を通してみんなで話し合うと、まだまだたくさんアイデアがでるんだなと感じました。とても楽しく毎回3時間を過ごさせていただきました。



このようなまちづくりに関わることは初めて経験させてもらったんですけど、人の思いを形にするのって、とても難しいことだなって実感しました。私は行政職員なので、これからの仕事にいかしていきたいと思います。



こういった場に関われたことは本当に自分の宝になるなと思ってます。こうして話し合うことで私の中での絆みたいなものができるのでありがたいなと思います。
このまちの基幹産業は農業ですので、もっとこういう場に農業者の方々がいたほうがいいんじゃないかなと思いますので、多くの農業者の方の意見を集めてほしいです。



これまで参加してきた他のワークショップは2、3回で終わってしまう中途半端なものでしたが、今回のワークショップはとても充実感がありました。このビジョンは「自分が作った」というイメージが強いので、逆に「守らなきゃいけない」というプレッシャーもあります。今後もこのような形で時間をとって話し合う場を作ってほしいです。



役場の方たちとこれだけ何度もお会いして話をするのが初めてだったので、とても充実していました。ここに集まっている方々の美瑛町に対する愛情ある話を聞くことが何よりもうれしく感じました。今後もこのメンバーはずっとつながってほしいなと思います。



ワークショップの会場に行けないときもオンラインで参加することができてよかったなと思います。参加するにあたって多様性が大事だなと思っていたので、多様な手段で参加できるってすばらしいことだなと感じています。こういった会議に参加できない方でもITを使うことによって参加できるかもしれないなと思いました。

(2) 講師からのひと言



枝廣 講師

次の20年に向けて、しっかりした美瑛町らしい、素敵なビジョン案ができました。コロナ禍でも、いえ、コロナ禍だからこそ「まちづくりをしっかり進めたい!」という、町民と役場職員の皆さんの思いがカタチになりました。

今回、SDGsの枠組みを活用して、美瑛町のありたい姿をみんなで描くことで、皆さんの視野が広がり、まちの将来に向けて役立つビジョンが生まれたのではないかと思います。

ビジョンの策定は第一歩です。ビジョンを作っただけでは何も変わりません。でもこのビジョンを土台に、その実現に向けてのステップを踏んでいくことができます。これからの時代、美瑛町が持続可能で幸せなまちに向かって進んでいくお手伝いができたことをとてもうれしく思っています。

ビジョンを固めて、実現に向けて取り組みを進めていきましょう!

5 おわりに

今回のワークショップは、ビジョン案を作成することを目標としていましたが、ビジョンを掲げるだけでは画餅に帰すこととなるため、それを実行する必要があります。美瑛町の「ありたい姿」を実現していくためには、今の美瑛町の状況を分析し、具体的な施策に落とし込んでいく作業が不可欠です。

今後は、新たな総合計画の策定に向けて、今回作成したビジョン案をもとに、町民の皆さんとの対話を深めていながら「みんなが住みたい、住み続けたい」と思えるまちづくりを進めていきます。

